

嶺北で地域医療学ぶ

大阪の大学生 診療所など訪問

【嶺北】県と医師派 本山町の町立嶺北中央遣協定を結んでいる大 病院などを訪れ、地域 阪医科大学と、同一法 医療実習を通じて、地 人の大阪薬科大学の学 域全体で患者を支えて 生がこのほど、長岡郡 いく必要性を学んだ。



大川村の小松診療所で見学する 学生ら(右から4人)＝同村小松

2大学による実習は 3年目。今年は6、10 日の5日間、医学、薬 学、看護学部生計6人 が2班に分かれ、病院 や介護施設、薬局など 嶺北地域の現場を回っ た。

10日の報告会で学生 は、聞き取りした住民 を例に挙げながら、「ホ ームヘルパーらとの交 流が生活の質を上げ る」「地域全体で患者を 支えられるよう呼び掛 けが必要」などと意見 を発表した。実習を終 え、医学部6年の中田 絢之さん(27)は「医療 資源の少ない地方で は、多職連携が必要な ことに気付けた」と話 していた。

(森本敦士)

8、10の両日は、土 佐郡大川村唯一の医療 機関、小松診療所を訪 問。大阪医科大から嶺 北中央病院に派遣され ている島田史生医師 (43)の診療を見学し た。「車に乗れない人の ためにも村内に(これ から) 診療所が必 要」「薬剤師がいな いた め、1カ月ごとでしか 薬の処方できない」 など、へき地ならでは の医療事情の説明を受 けた。村では保健師の